



メドーセージ

一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.198 2015.9月号

セージの仲間 宿根サルビア

9月に入ると園芸店の店頭にも活気が戻りますが、草花売り場で特に目立つてくるのが宿根性のサルビアたちです。サルビアといつても、昔からの赤いサルビアと違い、いわゆるセージと呼ばれる仲間たちで、主に青紫の花が多いようです。

✿オススメ品種を紹介!

代表的なものがメドーセージとも呼ばれるサルビア・グラニティカで、実は夏頃から出回つてくる種類ですが、非常に鮮明な濃い青紫の花がよく目立ち、濃緑の葉とあいまって人気の高い種類です。暑さ寒さに強く、庭植えにすると翌年はかなりの大株になり、地下茎を伸ばしてよく増えてくれます。しかし、油断すると大きくなりすぎるので、夏前に思い切って剪定するとよいでしょう。株の勢いがあればすぐに復活し、ちょうどいいサイズで咲いてくれます。

もうひとつブルー系でよく目立つのがラベンダーセージと呼ばれるサルビア・インディゴスパイク。こちらも初夏から出回つますが、長い花穂に鮮明な青い花を付け、ボリューム感たっぷりで長く楽しめます。花穂が長いだけでなく、

背丈も伸びやすいので、こちらも適当に摘心して育てるのがコツのようです。このほかにもたくさんのがブルー系のセージ類が出回りますが、それぞれに魅力的な花を咲かせるので、コレクションするのも楽しいものです。

10月頃になるとアメジストセージと呼ばれるサルビア・レウカンサが出回ります。メキシカンセージとも呼ばれ、独特のベルベットのような紫のガクが特徴で、かなり以前から出回つていて人気の高い種類です。他の種類に比べ開花は遅いのですが、秋の深まった頃に咲くビロードのような紫色はいかにも秋の色彩で、季節感を感じさせてくれる貴重な存在といえるでしょう。この紫のガクの中から白い筒状の花が咲く姿もかわいらしいのですが、その白い花が終わつたころ、花穂を基部から切り取つて逆さに吊るし、自然乾燥させておくとドライフラワーになり、アレンジなどに利用して美しい紫色を長く楽しむことができます。

これらのいわゆるセージ類とはちょっと

ります。特にサルビア・ネモローサと、その交配種といわれるサルビア・スペーバがオススメで、小型で密に花穂を上げてるので、鉢植えなどでもしっかりと楽しめます。本来は初夏に開花するのですが、この時期にも株として出回ることがあるので、注目しておきましょう。

✿庭植えに最適な場所

宿根サルビアは丈夫で栽培も簡単な花ですが、大きくなるものが多いので、庭植えとして楽しむのがおすすめです。特にグラニティカとレウカンサは大きくなるので、しっかりと場所を確保して楽しみましょう。逆にネモローサとスペーバーはこじんまりと育つので、鉢だけではなく、花壇にも使いやすいと思います。いずれの種類も日当たりがよく、水はけのよい所で育てるのがポイントです。



ラベンダーセージ